

★★★ 利用手順書 ★★★

○必要システム構成

- Java 実行環境 7 以降 (JRE・32 ビット版) が必要です。
 - astah をインストールしてあれば、インストール済みです。
 - ✧ JRE が 64 ビット版の場合には、astah 同梱の JRE は利用できません。
 - 存在しなければ、Windows 用・32 ビット版をダウンロードし、インストールします。
 - ✧ Oracle の Web サイト: <https://java.com/ja/download/>
 - ✧ AdoptOpenJDK Web サイト: <https://adoptopenjdk.net/releases.html>
 - ✧ **64 ビットの JRE は利用できません。ご注意下さい。**
 - 動作確認は JRE7 および AdoptOpenJDK 8 で行いました。
- Simple Logging Facade for Java (SLF4J) のモジュールが必要です。
 - astah 付属のもので代用できます。(実行時に警告がでますが、正常に処理できます。)
 - <http://www.slf4j.org/download.html> からダウンロードできます。
- Enterprise Architect が必要です。
 - 読み込み専用版(Viewer)では動作しません。

○以下の手順の前提条件 (動作確認環境)

- astah community 6.9
(professional 版については、後述の「注意事項」をご覧ください。)
- Enterprise Architect 13.0～15.2
- 以下の説明の「作業ディレクトリ」は `c:\temp` とします。異なる位置で実行する場合には、説明を適宜読み替えて下さい。

○準備

- 作業ディレクトリに、以下のファイルをコピーします。
 - Enterprise Architect のインストールディレクトリ内の「Java API」フォルダ内に含まれる「SSJavaCOM.dll」ファイルと「eaapi.jar」ファイル
 - astah の API に付属する「astah-api.jar」ファイルと「astah-community.jar」ファイル
 - ダウンロードした ZIP ファイルに含まれるすべてのファイル
 - SLF4J のファイル「slf4j-api-*.jar」ファイルと「slf4j-nop-*.jar」ファイル
 - ✧ astah の API の jar ファイルが含まれているフォルダに「slf4j-api-1.6.6.jar」ファイルがありますので、これを利用することもできます。この場合には「slf4j-nop-*.jar」ファイルに該当するファイルは配置しませ

ん。

- 移行元となる、astah のファイル(拡張子 .asta)
- 移行先となる、Enterprise Architect のファイル(拡張子 .eap)
 - ✧ Enterprise Architect のインストールディレクトリにある「EABase.eap」ファイルを利用することができます。
- ・ run.bat ファイルを、メモ帳などのテキストエディタで開き、内容を編集します。
 - 編集が必要な内容は、「set JAVA_HOME=」で始まる行と、「set SLF_JAR=」で始まる行です。(空行を含めて数えると、上から 3 行目および 4 行目です)
 - ✧ 「JAVA_HOME」には、Java のランタイムがインストールされているディレクトリを指定して下さい。
 - ✧ 「SLF_JAR」には、ダウンロードした SLF のファイルを指定して下さい。
 - ✧ 上から 6 行目および 7 行目には、astah で提供されるファイルをそのまま利用する場合の例があります。この例を利用する場合には、それぞれの行の先頭の「REM 」を削除し、必要に応じて内容を調整して下さい。

○実行方法

1. Windows のスタートメニューから、「コマンドプロンプト」を実行します。
2. 作業ディレクトリに移動します。
例: cd %temp
3. 移行のためのバッチファイルを実行します。
例: run Sample.asta EABase.eap
 - ・ slf ファイルの配置状況によっては、「SLF4J : Failed to load class」で始めるメッセージの他、いくつかのメッセージが表示されますが、これは無視して構いません。
 - ・ 進行状況などの情報が出力されます。
4. 完了後に、移行先の Enterprise Architect のファイルを開いて確認して下さい。
5. 作業中に、手順の関係で一時的な要素を作成し、最後に削除しています。内容に問題がない場合、「プロジェクト」リボン内の「ツール」パネルにある「管理」ボタンを押し、「EAPX/EAP ファイルの管理」→「EAPX/EAP ファイルの圧縮」を実行することで、ファイルサイズを小さくすることができます。

○注意事項

- ・ 変換対象の asta ファイルのサイズによっては、途中でメモリ不足で不正な動作になる場合があります。メモリ不足の可能性のあるメッセージが表示された場合には、bat ファイル内の MAXIMUM_HEAP_SIZE および STACK_SIZE の値を調整することで改善できる場合があります。
- ・ 既知の問題と制限事項については、以下の Web サイトで公開しています。
<http://www.sparxsystems.jp/products/EA/tech/ImportFromOtherTool.htm>
- ・ バージョン 7.0 以降の professional 版につきましては、run.bat の内容を以下のように書き換えると実行できるとの情報をいただきました。情報提供ありがとうございます。

(元ファイルの3行目から12行目までを、以下の内容で置換。Javaは32ビット版 AdoptOpenJDK 8 を利用。)

```
set JAVA_HOME=C:¥Program Files (x86)¥AdoptOpenJDK¥jre-8.0.265.01-hotspot
```

```
set SLF_JAR=¥slf4j-api-1.6.6.jar
```

```
set PATH=%JAVA_HOME%¥bin
```

```
set JUDE_JAR="C:¥Program Files (x86)¥astah-professional¥astah-pro.jar"
```

```
set API_JAR="C:¥Program Files (x86)¥astah-professional¥astah-api.jar"
```

(ただし、professional 版固有の図や表現は変換の対象外です。)

- ・うまく変換できない点などがあれば、ぜひサポートにお寄せ下さい。できる限り対応します。

(問題となる astah ファイルをご提供いただけることを対応の条件としておりますので、サンプルデータのご提供にご協力いただけますようお願いいたします。)

<https://www.sparxsystems.jp/inquiry.htm>

○ここまで書いてある内容がよくわからないが、とにかく変換したい

普段 Java を利用していない方など、上記の内容がよくわからないがとにかく変換したいという方向けに、これまでに説明している内容も含めて、手順をまとめます。

32 ビット版 astah community 6.9 の場合:

1. Windows マシンを用意する (OS は Windows7/10, 32 ビット・64 ビットどちらでも OK)
2. Enterprise Architect をインストールする
3. astah をインストールする
4. C ドライブの直下に、作業用のフォルダ(ディレクトリ)として work フォルダを作成する
5. このフォルダ内に、EAImporter.zip ファイルの内容を配置する
6. Enterprise Architect のインストールディレクトリから「EABase.eapx」ファイルを work フォルダにコピーする
7. Enterprise Architect のインストールディレクトリ内の「Java API」フォルダにある「eaapi.jar」ファイルおよび「SSJavaCOM.dll」ファイルを work フォルダにコピーする
8. astah のインストールディレクトリにある「astah-api.jar」ファイルと「astah-community.jar」ファイルを work フォルダにコピーする
9. astah のインストールディレクトリにある lib フォルダから「slf4j-api-1.6.6.jar」ファイルを work ディレクトリにコピーする
10. 変換元となる astah のファイルを work フォルダにコピーする
11. run.bat ファイルを右クリックして「編集」を選択し、メモ帳で開く

12. 3 行目・4 行目を消し、6 行目・7 行目の先頭の「REM」を削除する
13. Windows のコマンドプロンプトを開く
14. 「cd %work」を実行し、work フォルダに移動する
15. 「run.bat 変換元ファイル.asta EABase.eapx」を実行する
16. EABase.eapx を Enterprise Architect で開き、結果を確認する！

astah professional 7.0 以降の場合:

上記の community の手順と異なる部分のみ説明します。

- 手順 3 の後で、以下の URL から、32 ビット版 AdoptOpenJDK 8 をダウンロードしてインストールする
インストール時の設定は何も変更しないようにする
https://github.com/AdoptOpenJDK/openjdk8-binaries/releases/download/jdk8u265-b01/AdoptOpenJDK8U-jre_x64_windows_hotspot_8u265b01.msi
(このファイルが見つからない場合、<https://adoptopenjdk.net/archive.html> で以下のように選択する
 - 「1. Choose a Version」は「OpenJDK 8 (LTS)」
 - 「2. Choose a JVM」は「HotSpot」
 - 下の一覧で「Windows x86」を探し、「JRE」のボタンを押すとダウンロードできます
- 手順 8 は不要です。astah の jar ファイルはコピーしません。
- 手順 12 は、run.bat の 3 行目から 12 行目までを 3 ページ目で記載の内容に置換します。その後、置換後の 3 行目の AdoptOpenJDK のインストールパスの内容が正しいかどうか確認してください。